



# MGU Chapel Letter

—第9号 2022年3月11日—



発行：大学宗教センター



\* 2021 年度聖句 \*

「命のある限り

恵みと慈しみはいつもわたしを追う。」 詩編 23 編 6 節

## ❖ 卒業・修了礼拝の案内

卒業・修了礼拝が3月16日(水)午前10時～11時に礼拝堂で行われます。嶋田順好学院長が、「与えられた賜物を存分に生かして歩もう」(聖書箇所:イザヤ書 43 章 4 節、マタイによる福音書 25 章 14 節-30 節)とのタイトルでメッセージを述べて下さいます。本学を巣立って行く前に、ぜひ再び礼拝に出席してオルガンの音色に耳を傾け、聖書の言葉に心を向けましょう。奏楽は小野なおみ先生、バロックの巨匠 J・S・バッハと J・G・ヴァルターの曲を弾いて下さいます。

## ❖ ウクライナ難民のための緊急募金!

ロシア軍による侵攻のため、ウクライナでは200万以上の人々が難民となる悲惨な事態が生じています。この人道的危機を受けて、宮城学院全体で募金活動を開始しました。本館総務人事課内に募金箱が設置してありますので、どうぞご協力下さい(期間:3月10日木～18日金)。また、16日(水)の卒業・修了礼拝時には礼拝堂、18日(金)の学位記授与式の際には会場入口に募金箱が置かれます。集まった募金は、特定非営利活動法人 国連 UNHCR 協会 (<https://www.japanforunhcr.org/>、国連難民高等弁務官事務の公式支援窓口) に送られます。

## ❖ 長年のお働きに感謝いたします

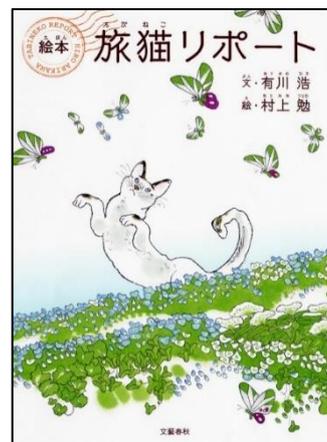
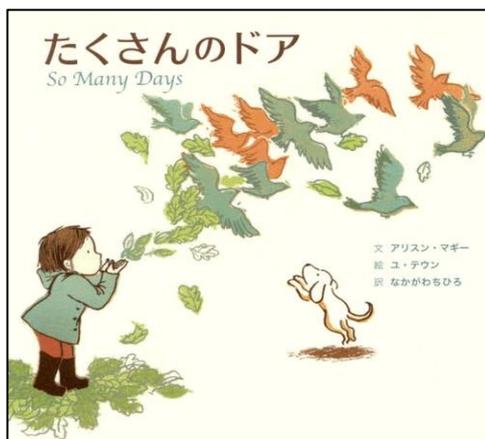
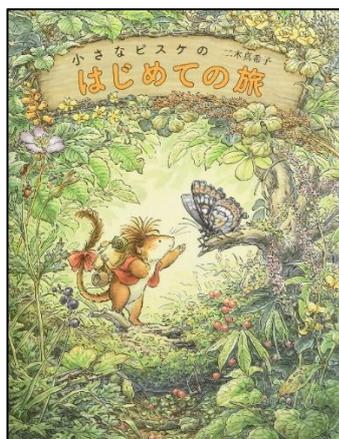
宮城学院学院長・宗教総主事として8年間活躍されて来た嶋田順好先生が、3月の任期終了をもって退任されます。4月からは東京の日本基督教団三田教会の牧師として奉職される予定です。先生は聖歌隊・ハンドベルクワイアの立ち上げ、キリスト教講座などのお話その他を通じて、学院のキリスト教活動を大きく盛り上げて下さいました。これまでの働きに心より感謝いたします。◆ 2017年から宗教センターで勤務されていた白川冴恵香さんが、3月をもって退職されます。白川さんは本学YWCAのOGでもあり、学生へも親身に対応して下さいました。センター事務所を支えて下さった働きに心より感謝いたします。

## ❖ 震災から 11 年

東日本大震災から 11 年が経過しました。現在も 3 万 8000 人が避難生活を余儀なくされています。被災者の苦しみを覚えると同時に、災害に備えましょう。

## ❖ 展示企画：「旅立ちの季節にこの絵本！」

礼拝堂入口ホールにおいて、展示企画「旅立ちの季節にこの絵本！」が 3 月 11 日（金）から始まりました。卒業式を控えたこの季節、「旅」に関する絵本を集めています。元スタジオジブリのアニメーター・二木真希子さんの『小さなピスケのはじめてのたび』、林明子の『こんとあき』、有川浩『旅猫リポート』などを展示中。31 日（木）まで。



## ❖ コラム：行き先が分からなくても

3 月は卒業の季節。社会に旅立つ時を控えて、期待と同時に不安を感じている 4 年生は多いはず。「自分の場合は、どんな感じになるのだろう」と考えている在校生もいるでしょう。人生の旅を歩むことは、誰にとっても心配なことが多いです。

不安を抱えながらも、思いきって前に踏み出す。意外なことに、聖書の土台にあるのはそんな話です。旧約聖書の大部分はイスラエル民族の歴史の物語で占められていますが、彼らの歴史は、1 人の人物の旅立ちの話から始まっています。アブラハムというおじいさんが神に呼ばれ、「行き先も知らずに出発した」（ヘブル人への手紙 11 章 8 節）というところから、聖書のドラマは幕を開けるのです。

アブラハムは旅の途中に多くの失敗をしでかし、いつも正しく行動できたわけではありません。しかし、神はそれでも彼を支え、導き続けます。人は人生という旅路を自分で歩いて行かなくてはならないけれど、神は人と共に歩いて下さる。決してひとりぼっちにはならない、ということが聖書の教えです。

秋田県の女子高生が、こんな短歌を作りました。「いちにちは夜中に始まるのだから歩き始めはいつもくらやみ」 歩み始める時には皆そう感じますね。でも、自分には見えなくても、暗闇の中にも本当は道が通っている。そのことを覚えましょう。（栗原）